

平成20年2月27日

宮城大学評議会議長
学長 馬渡 尚憲 殿

宮城大学共通教育改革検討委員会
委員長 大泉 一貫

宮城大学共通教育改革検討委員会報告について

記

平成19年6月評議会「共通教育改革検討委員会の設置について」により付託を受けた事項に関し、このたび下記の通り結論を得たので別紙のとおり報告する。

はじめに

「共通教育改革検討委員会」は、平成 19 年 6 月評議会の「共通教育改革検討委員会の設置について」の決定を受け評議会の下部組織として発足した。

本委員会の改革検討の目的は、「宮城大学学生の低学年時の基礎入門教育を改善し教育システム・内容・方法を向上させて、人間的にも知識・技術の上でも、宮城大学の「卒業生の質」(quality of graduates : QOG)の向上に繋げていくこと」にあるとされた。

上記の目的を達成するため、検討すべき事項として付託されたのは、(1)カリキュラムの改善、(2)担当者・担当の在り方の決定、(3)運営体制、の 3 点である。

かかる付託に応えるため、当委員会では、9 月以降各学部の協力を得ながら論点を整理し、合計 6 回にわたる審議と全学改革委員会での議論を経、このたび結論を得たのでここに報告する。

検討に当たっては、現行の共通教育科目等の問題点等について、次のようないくつかの指摘がなされた。大和・太白両キャンパスでの共通教育の実施に関わること、「社会の知恵」分野に関わること、前回のカリキュラム改正の際に、対人的な配置をしたことによる語学及び芸術分野に関わること、英語科目の専門と共通教育との区分に関わることであった。これらに関しては、共通教育改革の必要性和方向性に関し議論する中で共通認識を得ることとなった。

今回、評議会から検討要請のあった「共通教育改革」の中心は、カリキュラム改革であり、かつまた「維持する点」(参考参照)が明示されていることから、当委員会では、特に科目群の再編及び科目の選定を中心とした議論・検討を進めた。各学部から提示のあった科目案をうけ、それに基づいた議論を行ったが、結果として議論のベースとなったのは、学長提示の科目案であった(「共通教育改革の方向についての討議資料」H19・9・10)。

改革の主要な点は、科目構成の最適バランスの形成による全体領域の体系化、語学教育の重視と全学英語担当教員による執行体制の構築、語学教育による少人数教育の実現と教育の場としての固定クラスの実現(英語 ～)、国際的コミュニケーション能力を養成するためのネイティブ、英語による授業の実現(英語特論・)、社会人・大学生として基本となる、情報リテラシー・基礎統計学の重視とそれらの統一的指導の実現、人間的情操力、ホスピタリティ等を視野に入れた人間教育の実現(人間形成科目)、大学基礎としての基礎科学の設置(基礎科学)、留学生に特に配慮した日本事情、日本語教育の実現、特に語学教育を重点的に行うための「語学担当者会議」の設置、全体の運営をサポートし執行責任体制を明確化するための担当学部の明示、等々といった点である。

なお、今回の共通教育の改革を受けて、学部教育として全学共通教育と専門教育の有機的な連携を一層はかるとする観点から、今後、各学部ではさらなる発展的なカリキュラムの検討を行うことを委員会として要望するものである。

【 参考 】

1 , 評議会「共通教育改革検討委員会の設置について」によって示されている維持すべき点は以下の3点である。

- (1) 「共通教育」つまり全学部学生の低学年時に共通のカリキュラムによって、共通の科目を履修させる。
- (2) 全学体制、つまり副学長（または相当職）を責任者とし学部長・教務委員長等各学部代表者によって構成される権限の強い全学委員会によって、共通教育を管理運営する。
- (3) 2キャンパスについては、教員が移動し学生は当該キャンパスで受講する体制。

2 , 委員会での議論（検討）にあたって参考とした資料等

「共通教育科目に関するアンケート調査結果」(19・7)、「平成18年度・19年度の共通教育科目の履修登録者及び単位修得者調」、「専任教員の授業科目及び毎週授業時間数調」。(全学共通教育委員会)

「現行共通教育の課題と対応方向」についての議論結果(FD研修会共通教育部会)。

「共通教育改革の方向についての討議資料」(学長提示資料)。

その他

カリキュラムの改善

(1) 共通教育の枠組み（科目の分類（群）・各群の目的）

上記の共通教育の課題等に対応し、体系的な教育を実施するため、現行6分野を、以下の4分野に再編する。

今回の改正では、学生の履修のしやすさ、人間的成長の糧となる教育、三学部の共通性の確保、各学部専門との連続性の確保、といった観点から体系化した。

語学・情報・統計の三科目を共通リテラシーの性格が明確な科目群に再編した。従前の「導入科目」や「その他の科目」の一部を「人間形成科目」に統合し、豊かな人間性や情感の涵養と幅広い知識を背景に、健康、食、体、対人関係、情操を養うこと等を目指す科目構成に再編した。社会人としての教養を積む「社会の知恵」、さらには専門への補習の意味合いの「リメディアル」を三学部の専門科目との連続性を持たせる観点から「基礎科学」に一元化再編した。留学生対応科目は現行のままとした。

現行科目(群)分野	再編後科目(群)分野
リテラシ - (語学及び情報関連教育) 導入科目(専門へのイニシエーション) 社会の知恵(社会科学、自然科学及び人文科学) 留学生対応(日本事情及び日本語) リメディアル(専門教育の前提となる基礎知識の習得) その他(スポーツ実技等)	リテラシ - (語学及び情報処理・統計教育) 人間形成科目(健康学・食育・コミュニケーション論) 基礎科学(人文・社会科学及び自然科学) 留学生対応(日本事情及び日本語)

(2) 設置科目・科目の目的

科目の目的及び概要は、(別紙1)のとおりとする。

またシラバスレベルでの科目内容は、平成20年度での共通教育の全学組織での検討に委ねることとする。

以下新たな科目群の概要についてしめす。

1) リテラシ - (1・2年次履修、英語特論は3・4年次での履修を可能とする)

ア) 科目の位置づけ

- ・『語学』分野、及び「情報処理」、「基礎統計学」科目で構成する。
- ・リテラシーとしての意味合いを強く持たせる。

イ) 科目の設定

- ・『語学』分野は「英語 ・ ・ 」6単位を必修(2年前期まで)とし、選択科目と

して「英語」、「英語特論」、「中国語」及び「ハングル語」を配置する。英語科目の区分名称は、習熟度に応じた - - のレベル別にする。

- ・「英語」（必修）は、大和キャンパス分を9クラス、太白キャンパス分を3クラス程度の少人数固定クラスとし、現行の専任教員で担当する。
- ・「英語による国際的なコミュニケーション能力を養成する」という目標を設定し、学部ของ要望で行ってきた語学到達目標や方法（例えば、TOEICの目標点到達による単位認定や読解力重点の教育等）は、各学部での専門教育で実施する。
- ・「中国語」は、本学への中国人留学生の増加傾向や、ビジネスマーケットとしての将来性において中国が重要な位置を占めていることから開講するものである。
- ・「ハングル語」は、隣国として近年、社会・経済・文化分野での交流が進行している現状から開講する。
- ・「情報処理」科目は、情報処理を適切に行うための基礎的な知識と技能の習得、情報化社会におけるモラルや社会的な問題に関する基礎的な知識の習得を教育目標とする。またワードによるレポート作成、エクセルによる集計、パワーポイントによるプレゼンテーションなどのノウハウを得る。
- ・「基礎統計学」科目は、専門教育で必要になる基礎的な統計手法を教育する。
- ・また、情報処理、及び基礎統計学は、将来的に、共通の教科書を作成し、「語学教育」同様の少人数クラスによる教育を全学的に行うのが望ましい。

2) 人間形成科目(1・2年次履修)

ア) 科目群の位置付け

この分野は、高校教育から大学教育への円滑な意識転換を図り、かつまた健康の増進や情操の教育、他者との関係の構築など、社会人としての人間形成に必要とされる基礎的知識・教養の向上を目指す。導入教育科目の位置付けとして以下の科目を設置する。

イ) 科目の設定

○ 基礎ゼミ(1年次前期必修、1単位)

高校教育から大学への転換を図り、大学生活になじむことを目的とするとともに、各学部の専門教育や研究への心構えをすることを目的とする。

○ 健康学

成人期の体と精神の健康について学び、生涯にわたる健康法を身につける。

○ 食育

生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取り組みを行う。(出典：財団法人 食生活情報サービスセンター)

- コミュニケーション論

他者とのコミュニケーションに関する基本的な知見を理解し、適切な人間関係を形成・維持するためにコミュニケーションにおいてどのような配慮が必要かを理解させる。（真覚先生シラバスより）

- スポーツ実技

体育を通じて人間形成を目指す科目として配置する

- 音楽・美術

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

3) 基礎科学（1・2年次履修）

ア) 科目群の位置付け

「社会の知恵」と「リメディアル」分野を再編して、『基礎科学』分野とする。

各学部での専門教育科目を学ぶ上で必要な基礎的な科学的知識を身に付けるとともに、広い視野から物事を考える能力を培うことを目指す科目構成とする。

本学の文理融合の観点から、「文」を「人文科学と社会科学」とを統合し、「人文・社会科学」に、また「自然科学」をもう一つの領域に再編し、文科系進学者にとっても、理科系進学者にとっても履修しやすい形とした。

イ) 科目の設定

「人文・社会科学」、「自然科学」の両領域から構成される科目は、第1表「共通教育カリキュラム（案）」のとおりとするので、説明を省略する。

4) 留学生対応（1・2年次履修）

ア) 科目群の位置づけ

外国人留学生の日本語習得を支援し、学習上の便宜に配慮することを目的とする。

イ) 科目の設定

「日本語」「日本事情」の科目を配置する。

（2）配当年次と卒業要件単位

共通教育の位置付けとして、専門教育への準備段階になることから、全科目分野（群）において、1・2年次での履修を基本とする。（「英語特論」については、英語科目の「英語による国際的なコミュニケーション能力を養成する」という目標をさらに強力に推進するために設ける科目であり、3・4年次での履修も可能とする。）また卒業要件は25単位以上（暫定）とする。

第1表

共通教育カリキュラム(案)

科 目	学部・学科 コース	単 位 数	看護		事業構想			食産業			卒業要件
			看護	計画	デザイン情報			ファーム ビジネス	フード ビジネス	環境 システム	
					情シ	デ情	空間				
リテラシー											
語学	英語	2	必	必	必	必	必	必	必	必	
	英語	2	必	必	必	必	必	必	必	必	
	英語	2	必	必	必	必	必	必	必	必	
	英語	2									
	英語特論	1									
	英語特論	1									
	中国語	2									
	ハングル語	2									
情報処理		2	必	必	必	必	必	必	必	必	
基礎統計学		2	必	必	必	必	必	必	必	必	
人間形成科目											
基礎ゼミ		1	必	必	必	必	必	必	必	必	
健康学		2									
食育		2									
コミュニケーション論		2									
スポーツ実技		2									
音楽		2									
美術		2									
基礎科学											
人文・社会 学	地域社会論	2									
	哲学・倫理学	2									
	心理学	2									
	憲法	2									
	法学概論	2									
	経済学概論	2									
自然 科学	数学概論	2									
	物理概論	2									
	化学概論	2									
	生物概論	2									
留学生対応											
日本事情		2	必	必	必	必	必	必	必	必	留学生のみ履修可能
日本語 A		2	必	必	必	必	必	必	必	必	
日本語 B		2	必	必	必	必	必	必	必	必	
日本語 C		2	必	必	必	必	必	必	必	必	

必 → 必修

共通教育科目の卒業要件単位は、30単位を目途に各学部で検討を行う。

ただし、看護学部の卒業要件単位は、「保健師助産師看護師学校養成指定規則」改正に対応するため、25単位以上とする。

担当者・担当の在り方

(1) 担当教員の責務

担当教員は、担当科目について、科目概要の趣旨に沿った授業を両キャンパスで提供することをその責務とする。

(2) 担当の選定とその維持方法

各科目の担当教員は、専任教員の担当を基本とする。担当専任教員の選考に当たっては、従前の担当、専門性、現行の科目数（食産業学部大学院設置時点での科目を加算する）、各学部の専任教員の人員等及び非常勤講師の任用状況等を参考に決定する。

また担当教員に関しては、各学部より提案をだしそれを基に決定する。その際、主要科目に関しては助教は担当しないこととする。

その結果、平成21年度の共通教育科目担当教員については、第2表のとおりとする。

維持方法として科目毎に学部責任を明確にした学部責任体制とした。平成21年度の共通教育の科目毎の責任担当学部は第2表のとおりとする。

(3) 科目担当教員の配置非常勤講師の決定等全体の管理

科目担当教員の配置、非常勤講師の任用等に関しては科目毎に基本的に学部責任体制とし、その全体を「共通教育運営委員会」が管理する。科目毎の責任部局は、第2表のとおりである。

また専任教員の割当数は、リテラシーと基礎ゼミをのぞいた場合、看護・事業構想・食産それぞれ、4・4・5となる。

(4) 担当教員の決定

担当科目の担当教員に関しては、6月末までに「共通教育委員会」において実際の氏名をあげて決定するものとする。

第2表

~~(平成21年度)~~ 共通教育科目担当教員(案)

科 目 名		担当教員	H 2 1 担当教員 (案)	担当学部
リテラシー				
語 学	英語 (必修)	各学部専任教員 ((仮称) 語学センター所属・各学部兼任)		共通教育委員会
	英語 (必修)			
	英語 (必修)			
	英語			
	英語特論	国際センター専任教員		
	英語特論	国際センター専任教員		
	中国語	(学部 の 必要性 に 応じ)	(非)	
	ハングル語	非常勤教員	(非)	
	情報処理	各学部専任教員 (専門教育担当)		看 護
				事業構想
				食 産 業
	基礎統計学	各学部専任教員 (専門教育担当)		看 護
				事業構想
				食 産 業
人間形成科目				
基礎ゼミ	各学部専任教員		各 学 部	
健康学	看護学部専任教員 (専門教育担当)		看 護	
食育	食産業学部専任教員 (専門教育担当)		食 産 業	
コミュニケーション論	看護学部専任教員 (専門教育担当)		看 護	
スポーツ実技	食産業学部専任教員 (共通教育担当)		食 産 業	
音楽	看護学部専任教員 (共通教育担当)		看 護	
美術	非常勤教員 事業構想学部専任教員 ()	(非)	(共通教育委員会) 事業構想	
基礎科学				
人 文 ・ 社 会 学	地域社会論	事業構想学部専任教員 (専門教育担当)		事業構想
	哲学・倫理学	非常勤教員	(非)	(共通教育委員会)
	心理学	看護学部専任教員 (専門教育担当)		看 護
	憲法	非常勤教員	(非)	(共通教育委員会)
	法学概論	事業構想学部専任教員 (専門教育担当)		事業構想
	経済学概論	事業構想学部専任教員 (専門教育担当)		事業構想
自 然 科 学	数学概論	非常勤教員	(非)	(共通教育委員会)
	物理概論	食産業学部専任教員 (専門教育担当)		食 産 業
	化学概論	食産業学部専任教員 (専門教育担当)		食 産 業
	生物概論	食産業学部専任教員 (専門教育担当)		食 産 業
留学生対応				
日本事情	国際センター専任教員		共通教育委員会	
日本語	非常勤教員	(非)		
日本語	非常勤教員	(非)		
日本語	非常勤教員	(非)		

運営体制

(1) 共通教育委員会の改称・改組

共通教育に関する審議・実施・運営機能は、「共通教育委員会」(改組「共通教育運営委員会」(法人化案による))が担うこととする。「共通教育運営委員会」は、共通教育に関するカリキュラムの編成権を有し、各キャンパスにおける実施方法を検討・実施し、各学部の共通教育担当割当数の管理を行う

(2) 共通教育委員会に必要とされる機能

当委員会に付託された事項の範囲で考えられる「共通教育委員会」の機能としては以下のことが考えられる。

- 共通教育科目の科目運営に関わる業務
- 語学教育の一元的・日常的な執行管理
- 共通科目担当専任教員の選考(語学科目、音楽、スポーツ実技、等)
- 共通教育科目担当非常勤講師の選任
- 科目担当教員の配置等、各学部の責任担当制の管理

(3) 共通教育科目の単位関係業務と語学教育の一元的・日常的管理について

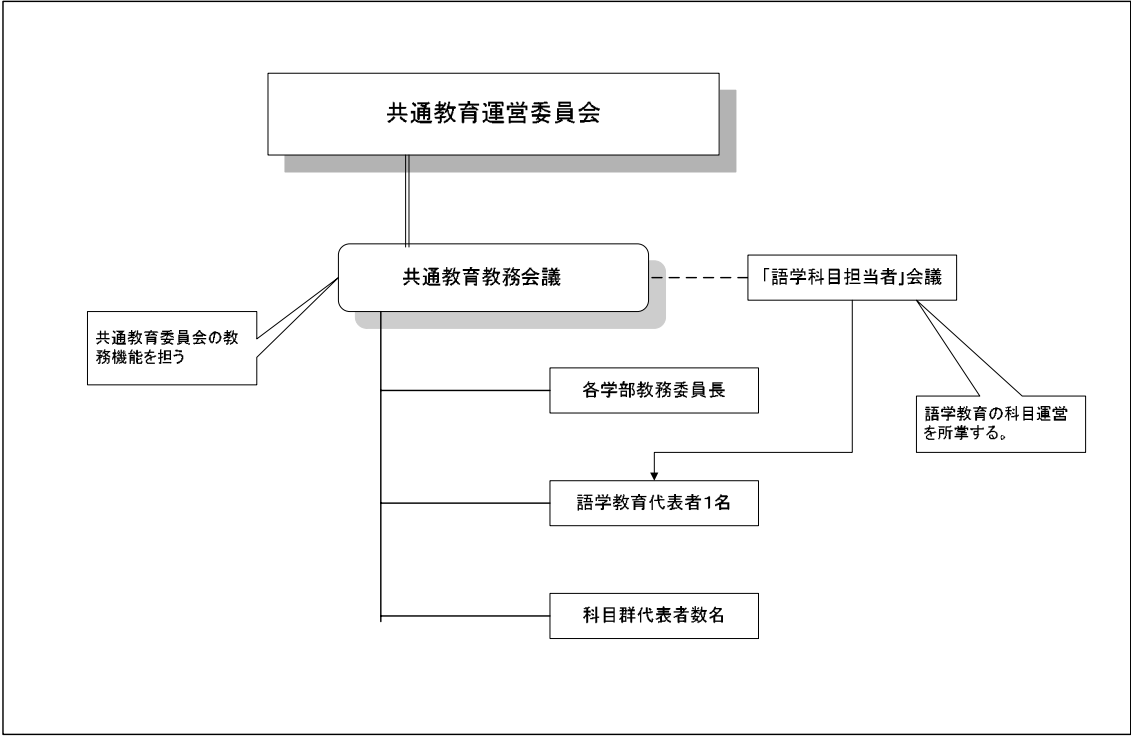
- ・「共通教育委員会」は**教務関係のとりまとめ等、科目運営**に関して必要な場合には、「共通教育教務会議」(仮称)を設置し対応する。「会議」の構成は、「語学担当者会議」から1名、各学部教務委員長及び科目群代表者若干名で構成する。会議は、必要に応じて開催する。「語学担当者会議」はこの内部組織とする。(第1図)
- ・ **共通教育の単位認定**に関しては、科目受講者の所属学部の教授会で行う。
- ・ **語学教育の実施・日常的管理**に関しては、「語学担当者会議」(仮称)を設置し行う。
- ・「語学担当者会議」(仮称)は、「共通教育委員会」の付託を受け、クラス分け、学習内容の検討、進捗状況等の管理を行うとともに、**語学非常勤講師の選考**に関わる。
- ・「語学担当者会議」は、語学(英語)担当教員と各学部教務委員長で構成する。
- ・「(共通教育)教務会議」、「語学担当者会議」の位置付けは法人化案による。

(4) 人事方式

共通教育担当専任教員の選考は、「共通教育運営委員会」と各責任担当学部との共担とする。共通教育専門専任教員に関しては、「共通教育運営委員会」に「選考委員会」(法人化案による)を設置し、候補者を選び、各学部で選考する。

第 1 図

共通教育運営委員会の組織



[参考資料]

- 別紙 1 共通教育カリキュラム 科目の目的・概要（案）
- 別紙 2 共通教育改革検討委員会 検討経過
共通教育改革検討委員会委員名簿

別紙 1

共通教育科目の目的・概要

科目群（分野）	科目名	科目の趣旨（概要）	年次
1 リテラシ - 大学人として必要な基本的なテラシーに関する科目を配置する。「語学分野」、「情報処理」、「基礎統計学」科目で構成する。			
語学	英語 （両キャンパスで開講） 少人数クラス編成 1年次（英語 ・ ）固定クラス	日常的英語の読解、会話、リスニングの強化 国際社会への関心の涵養 グループ学習 友人関係の育成	1 前必修
	英語 （両キャンパスで開講） 少人数クラス編成 1年次固定クラス	日常的英語の読解、会話、リスニングの強化 国際社会への関心の涵養 グループ学習 友人関係の育成	1 後必修
	英語 （両キャンパスで開講） 少人数クラス編成	専門的な英語の読解、会話、リスニングに関わる基礎力の養成 グループ学習 友人関係の育成	2 前必修
	英語 （両キャンパスで開講）	専門的な英語の読解、会話、リスニングに関わる基礎力の養成	2 後選択
	英語特論 （両キャンパスで開講）	英語による講義 国際社会人になるための実学 総合的な英語能力の習得と向上 ネイティブ・スピ・カ・指導	3・4 前選択
	英語特論 （両キャンパスで開講）	英語能力向上を目指す英語による講義 国際社会人になるための実学 総合的な英語能力の習得と向上 ネイティブ・スピ・カ・指導	3・4 後選択
	中国語	基本的技能（聞く・書く・読む・話す） 中国文化・習慣	1・2
	ハングル語	基本的技能（聞く・書く・読む・話す） 朝鮮文化・習慣	1・2
情報処理		情報倫理・情報モラル ネットワークの基礎・仕組み ワードを使ったレポートの書き方 エクセルを使った集計の仕方 パワポによるプレゼンの仕方	1 前必修
基礎統計学		確率と確率分布 正規分布と2項分布 母集団・抽出標本 相関分析・回帰分析 分散の分布と×二乗分布	1 後必修

分野名	科目名	科目の趣旨（概要）	年次
2 人間形成科目 豊かな人間性や情感の涵養と幅広い知識を背景に、健康、食、体、対人関係、情操を養うこと等を目指す科目。			
	基礎ゼミ	大学生活への入門 研究とは何か 宮城大学の特徴	1 前 必修
	健康学	健康の概念、解釈 大学生の生活習慣、生活習慣病 運動・栄養・休養 タイムマネジメント 心の健康、からだの健康	1・2
	食育	食を巡る社会的醸成 食文化の継承と異文化への関心 食生活と健康の確保 食を選択する判断力 食をたのしむ	1・2
	コミュニケーション論	他者とのコミュニケーションに関する基本的な知見の理解 適切な人間関係を形成・維持 アサーティブコミュニケーション（主張の仕方）	1・2
	スポーツ実技	体力テスト 体力評価および身体組成評価 体力トレーニング チームスポーツ	
	音楽	生涯にわたり芸術を愛好する信条を育成 感性を高め芸術の諸能力の向上 豊かな情操の形成 音楽に関わる知識の習得	1・2
	美術	生涯にわたり芸術を愛好する信条を育成 感性を高め芸術の諸能力の向上 豊かな情操の形成 美術に関わる知識の習得	1・2

分野名	科目名	科目の趣旨（概要）	年次
3 基礎科学 各学部での専門教育科目を学ぶ上で必要な基礎的な科学的知識を身に付けるとともに、広い視野から物事を考える能力を培うことを目指す科目とする。本学の文理融合の観点から、「文」を「人文科学と社会科学」とを統合し、「人文・社会科学」に、また「自然科学」をもう一つの領域に再編し、文科系進学者にとっても、理科系進学者にとっても履修しやすい形とした。			
人文 ・社会学	地域社会論	地域社会の構造（人口、行政区、中山間地、コミュニティ） 地域社会の諸問題（地方分権、国際化、情報化） 地域社会における伝統文化の継承 東北における地域社会の特性 東北の新しい地域社会形成への展望と課題	1・2
	哲学・倫理学	哲学とは何か・自然科学と哲学 芸術・文化と哲学、生命倫理学 技術進歩と倫理のかかわり 働くことの意味（職業倫理）・説明責任 企業倫理の役割、	1・2
	心理学	心理学の基礎（感覚・知覚・認知） 学習・記憶 パーソナリティ 欲求・動機付け 感情・情動	1・2
	憲法	憲法の基礎原理 国民の義務 国民の権利 国民と立法・行政・司法の関係	1・2
	法学概論	法の目的 法と裁判 民法 刑法 国際社会と法	1・2
	経済学概論	経済的物事の考え方 国民所得等 景気 雇用 国際貿易	1・2
	数学概論	位相入門 情報 論理 微・積分法 ゲーム	1・2
自然科学	物理概論	力学（運動の法則、エネルギー、音波） 熱学（エネルギー保存則、エントロピー） 電磁気学（静電場、静磁場、電磁波） 量子力学入門（原子、光の粒子性と粒子の波動性）	1・2
	化学概論	原子の構造と周期律 化学結合と物質の構造 化学反応と化学平衡 有機化合物の種類とその命名法 有機化合物の反応	1・2

分野名	科目名	科目の趣旨（概要）	年次
	生物概論	細胞 生命の連続 タンパク質と遺伝情報 生物の反応 生態	1・2

分野名	科目名	科目の趣旨（概要）	年次
4 留学生対応 外国人留学生の日本語習得を支援するとともに、学習上の便宜に配慮するため、「日本語」「日本事情」の科目を配置する。			
	日本事情	日本の歴史 日本の社会（政治・家族制度・教育・産業） 日本の文化（芸術・文学・マスコミ） 海外における日本の役割	1 前 必修 (留学生のみ)
	日本語 . . .	基本的技能（聞く・書く・読む・話す） 調査発表の仕方 手紙の書き方 文法・語彙表現・表現・発音	1・2 必修 (留学生のみ)

別紙 2

【検討経過】

第 1 回委員会	平成19年 9月26日	・共通教育改革検討委員会付託事項の検討について
第 2 回委員会	平成19年10月17日	・学部及び各部会からの提案・意見等について ・共通教育改革の方向(学長案)について
第 3 回委員会	平成19年11月14日	・学部からの科目に対する提案等について ・新共通教育科目の決定(確認)について
第 4 回委員会	平成19年12月12日	・新共通教育科目(案)について
第 5 回委員会	平成20年 1月16日	・新共通教育科目(案)について ・運営体制について
第 6 回委員会	平成20年 2月13日	・報告(案)について

【委員会構成】

共通教育改革検討委員会委員名簿

平成19年7月25日評議会

	学 部	氏 名	備 考
委員長・評議員	事業構想学部	大 泉 一 貫	
委員・評議員	看護学部	長 澤 治 夫	
委員	看護学部	宮 林 幸 江	
委員・評議員	事業構想学部	井 上 誠	
委員	事業構想学部	岡 田 貞 明	第1回から4回まで
委員	事業構想学部	宮 原 育 子	第4回から
委員・評議員	食産業学部	齋 藤 満 保	
委員	食産業学部	木 村 和 彦	
委員・「リテラシー」(英語)群	事業構想学部	日 野 克 美	
委員・「リテラシー」(情報)群	事業構想学部	梶 功 夫	
委員・「導入科目」群	食産業学部	樋 口 貞 三	
委員・「社会の知恵」群	看護学部	真 覚 健	
委員・「リメディアル」群	食産業学部	大 竹 秀 男	
委員	事務局	佐々木 榮 一	